

四国教区青年活動報告

2021年9月 報告者 四国教区 教育部委員長 阪口新（多度津教会）

四国教区の青年の活動は大きく二つに分けられる。1つは、中高生を対象に春休みに行っているスプリングキャンプ。もう1つは、大学生以上の青年を対象に行っている青年集会である。

スプリングキャンプは、教育部が担当し、毎年春休み期間に2泊3日で、四国のキャンプ場等で行っている。テーマを教育部内で検討し、テーマに合った講師を選定。講師に90分×3コマの授業を担当して頂く。授業と合わせて、アクティビティなども行う。例年10～20人ほどの中高生が参加するが、2018年度を最後に、コロナ禍によって開催出来ていない。そのため、昨年は、スプリングキャンプの過去の参加者や参加を希望していた中高生に向けた教育部委員によるメッセージ動画を作成し、YOUTUBEで公開した、また、2021年8月5日にデイキャンプ（簡単な礼拝と川遊び）を企画していたが、こちらも急激な新型コロナウイルス感染症の拡大のため、中止を余儀なくされた。（写真は前回2018年度スプリングキャンプの一コマ 皆で学んだり、遊んだり、制作したりいろいろです）



青年集会は、毎年、ゴールデンウィークの頃に一泊二日で教会等に宿泊して行っている。こちらは各分区の青年部が持ち回りで、企画運営をするため、内容は担当者によって異なる。2020年度、2021年度と共に高知分区が担当し「お金と信仰」のタイトルで開催予定だったが、こちらも新型コロナウイルス感染症の拡大により、延期が続いている。



前回青年担当者会において、SNS等を用いた伝道が取り上げられたことから、四国教区教育部でもLINEを活用した交流の促進も検討したが、ネットいじめや誹謗中傷などの問題が起きた場合に教育部側での制御が難しいこと、また、スマホを持つことについての各

家庭の考え方が様々であることから結局見送られ、YOUTUBE配信という形になった。視聴は131回(8月16日現在)と例年の参加者数から考えるとまずまずとも思えるが、一方的な発信であるため「交流」と言えるのか疑問が残る。一くくりに青年と定義しても、中学生、高校生、大学生、社会人と立場や肩書によって、成立するコミュニケーションにかなり差があるため、一方でうまくいったことが他方では成り立たないというのが、難しい面だと感じている。

※ 四国教区スプリングキャンプ スタッフメッセージ(YOUTUBE)を見る ⇒ [ここをクリック](#)